埼臨技だより

発行所　公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会
〒330-0072　さいたま市浦和区領家７-14-７　TEL 048 (824) 4077　FAX 048 (824) 4095
URL:http://www.sairingi.com/　携帯URL:http://www.sairingi.com/keitai/index.html　Twitter : @sairingi

平成26年度 日臨技関甲信支部・首都圏支部合同 人材育成研修会が開催される

去る２月７日(土)、ラフレさいたま５階桃の間において、平成26年度日臨技関甲信支部・首都圏支部人材育成研修会が開催されました。この研修会は、旧関甲信地区検査技師会（１都８県）において各都県持ち回りでの開催を決定したもので、関甲信地区技師会が２支部に分離した現在も１都８県の枠組みで開催しており、今年度で５回目になります。当日は、各県のベテランから若手まで幅広い年齢層の71名が参加され、会場は超満員でした。

川口克彦先生

はじめに東武医学技術専門学校校長の川口克彦先生から「技師の人格形成へのアプローチ」について、先生ご自身の豊富な経験談を交えて、学生気質の変遷、求められる技師を育成するための様々な取り組みについて、ご講演いただきました。講演予定時間を少し超過する熱演で、会場からは笑いや驚きの声が聞かれ、先生の日ごろの学生に対する姿勢が垣間見える講演でした。

南陸彦先生

次に日本赤十字社関東信越ブロック血液センター顧問の南陸彦先生から「自己のスキルアップについて」と題したご講演をいただきました。企業（組織）は、「通常業務をきちんと出来る」だけでは不十分であり、「かなりのスピード変化する環境に柔軟に対応でき、イノベーション（新しい価値）を創造できる人材を求めている。」との話から始まり、人が成長する要素を学術的な分析を用いて紹介されたあと、自分を成長させるための意識作りや自己啓発といった自己のスキルアップ手法について、お話しいただきました。

講演後には、求められる人材の資質や気質について、どのように経験（研修）させたら良いか、又その評価方法は？といった管理者側からの質問があり、どの施設においても人材育成は重要な課

題であることを再認識しました。

最後に１都８県の技師会会長から各都県の人材育成の取組みについて発表があり、この時点でタイムアップとなったため、終了証の授与式は割愛となりましたが、大盛会のうちに終了しました。

また、研修会終了後の意見交換会も盛会で、県の枠を超えた交流の場として大変有意義な研修会となりました。

（文責：島村益広）

平成26年度日臨技・埼玉県技師会主催「検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会」開催される

平成27年２月21日（土）と22日（日）に大宮ソニックシティ602会議室で71名の受講者が参加し開催されました。厚生労働省医政局長通知（平成19年12月28日付）の採血や検査についての説明において「臨床検査技師との適切な業務分担を導入すること」が医師等の負担を軽減するとの考えに対する通達を受け「検査説明・相談ができるためのスキルアップ」を目的とした日臨技事業の一環と位置付けられた講習会です。

諏訪部章先生

開講式の挨拶で津田会長より「これからの臨床検査技師の必要なスキルとして、検体採取、検査説明・相談は必須であり積極的に検体採取の国家資格の取得と検査説明のスキルアップを図ってもらいたい。また臨床検査技師の将来として2025年問題をしっかり見据えていかなければならない。」とのお話があり、受講者の気持ちがギュッと引き締まる挨拶をいただきました。講習会初日のプログラムは、「検査説明・相談に取り組む意義」「接遇の基本」「検査説明・相談に期待するもの」、そして臨床病理医として検査説明・相談を積極的に推進していただいている岩手医科大学諏訪部章教授による「検査説明の実際」は教授の検査説明・相談の実施への情熱を強く感じる講演でした。２日目は「患者心理」「R-CPC」「看護師の患者接遇」「検査説明の実例報告」「模擬演習」など実際に行っている施設の事例や他県の実施例など、どのように進めていけばいいかロールプレイングを含めた講演でした。すでに実施している施設として安曇総合病院　内田先生、北里大学病院　三浦先生の講演は実践例としてとても参考になるものでした。実践に向けては糖尿病相談やNST相談など取り組みやすいところから展開している例が多く、受講生の中に検査室管理者も

多く参加されていたので、検査相談の導入に向けたきっかけになることを期待したいと思います。内容の濃い２日間の研修会が無事終了し、研修修了書は受講生を代表して吉川中央総合病院の渡辺氏が受領されました。

最後に、埼玉県内で初めての「検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会」の開催でしたが、講演の先生方の熱意と参加された受講生の真剣な取り組みやロールプレイングへの積極的な参加により活発な講習会とすることができましたことを、研修会スタッフ一同、心より感謝いたします。

また、今回の研修会に参加された受講生を代表として３名の方に受講された感想文をご執筆していただきました。　（文責：岡田茂治）

「検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会」に参加して

さいたま赤十字病院
伊波　嵩之

この度「検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会」に参加させていただき、検査技師はここまで説明・相談ができるのかと大変驚きがあり、内容の濃い講習となりました。

私自身は、講習を受ける前までは検査技師が説明・相談ができる範囲はあくまで検査の目的や手技についてであって、「数値が良くなった。」、「悪くなった。」、「各疾患やここに異常がありそうですね。」など結果について触れることはしないと考えておりました。しかし、講習や模擬練習では患者さんのデータを基に、「前回よりも数値が良くなっていますね。」、「このデータから○○が考えられますね。」など、患者さん一人一人について詳しく結果について説明していることに驚きました。また、実際にデータを見ながら説明をしていく際、検査技師としての知識はもちろん、薬理学や栄養学など多方面の知識、患者さんの背景を聞きだす技術、具体的には「挨拶・身だしなみ・態度・言葉遣い」といった接遇マナーが重要であり、その難しさを講演や模擬練習にて痛感させられました。

模擬練習では症例ごとに患者役、技師役、評価担当２名が選出され皆さんの前で実際に実演し、評価担当の１名が良い評価、もう１名が悪い評価をしてから全体での意見交換という形式で進行していきました。私は一症例の悪い評価担当に選ばれましたが、評価するにあたり説明内容はもちろん、言葉遣いやちょっとした気遣い、患者さんの様子を伺う観察力など様々な面をチェックするように意識して臨み、その中で改めて普段患者さんが私たちをそれだけ見ている、気にしているということを再確認することができました。

検査説明・相談をするには知識もマナーも不足していることを思い知らされましたが、これからさらに学べる世界が広がったこと、なにより患者さんや医師、看護師、その他の医療従事者の方とのつながりを大切にしていこうと思える講習となりました。

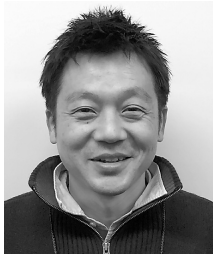
医療法人 俊睿会 南埼玉病院
光　知佐子

２日間の講習で、患者接遇から検査説明の実際まで幅広く、内容の濃いカリキュラムでした。

患者接遇の講義では、まず挨拶の仕方から学びました。「語先後礼」が基本で、挨拶の言葉を言いきってから、お辞儀をします。まさにデパートの店員やキャビンアテンダント等が行っている挨拶で、病院にもそのような挨拶が必要になってきたのかと衝撃をうけました。講師の方々の話を聞いていると、色々な言葉が胸に突き刺さり、今までの自分の接遇が傲慢であったのではないかと考えさせられました。

また、本題でもある検査説明の講義では、検査のことだけでなく、薬学や栄養学まで勉強し、しっかりと知識をつけなければいけないこと、患者さんに検査説明を始めるときは、病院や医師の理解を必ず得ることが必要であること、病院によって医師からのニーズが様々であることが分かり、病院其々で独自のやり方があってもいいのかなと感じました。

模擬練習では、患者役、説明役、良い評価を言う役、悪い評価を言う役に分担し、ビデオを撮りながら（後で見直して客観的に自分の説明を見るため）、全員の前での発表でした。絶対当たりたくない状況の中、一番嫌な説明役が当たってしまい、逃げ出したい気分の中、検査データーを見ても、緊張で患者さんに何を話そうかまとまらないまま本番へ。患者さん役の方に助けてもらい何とか終了したものの、思うように話せずボロボロでした。説明役になったからこそ、反省を踏まえ、いろいろ考えさせられました。この経験を生かし、当院なりの検査説明が近いうちにできればいいと思います。



上尾中央医科グループ上尾中央臨床検査研究所
渡邉　俊宏

一般的に講習会というと講義形式が中心となりますが、本講習会は疑似体験や練習が半分を占めていました。初めに検査説明に関わる意義を明確にし、患者接遇と検査説明技術が交互に行われる構成となっています。特に患者接遇の学習方法は、接遇の一般論から臨床心理、看護師の患者接遇まで視点を変えてアプローチするもので、一般的な接遇を患者視点で使う為のヒントが得られた気がします。

さて、本題の検査説明では症例の検査データから病気を推定するグループディスカッションや、患者に向かい説明する疑似体験を行いました。その患者説明には、表現や接遇は適切であったか、説明の質についてまで会場全体でディスカッションをするというとても濃いものでした。

私には患者の役割が与えられ、臨床検査技師の役割の方から説明を受ける体験をしました。説明役の方はとても丁寧な接遇を踏まえて説明しているので、患者役の私は信頼や安心の気持ちが湧いてくるのが感じられました。説明という行為にはその人の知識は必須ですが、信頼はそれ以上に大切であると感じました。きっと、そのような検査技師がいる施設には、次もお世話になりたいと思うはずです。あ、なるほど。これだから接遇って大切なんだ。初めから知識が十分なわけではありませんが、人の心に触れる説明を心掛けようと思いました。

平成26年度　第２回管理運営研修会

「臨床検査と医療を取り巻く2018年と2025年の問題」開催される

平成26年度 第２回管理運営研修会は、平成27年２月24日（火）、大宮ソニックシティ602号室において、「臨床検査と医療を取り巻く2018年と2025年の問題」と題して、講師に株式会社ＬＳＩメディエンスの瀬戸山友一先生をお招きして開催されました。

みなさん「2025年問題」をご存じでしょうか？　今でこそ知る人も多いが、この業界で飯を食うわれわれが知らないでは済まされません。

なぜなら、今後もしかすると私たちの働く場がなくなってしまうことさえ十分考えられるからです。少なくとも現在の医療提供体制は大きく変容するに違いありません。今までがそうだったように、病院収入を確保するためには厚生労働省の敷いたレールの上を必死になって走らざるをえなくてはなりません。その結果、現在の方向性を踏襲できる群と現状から撤退せざるを得ない群とに大きく分かれることになります。すなわち勝ち組と負け組といったところでしょうか。

団塊の世代がいっせいに後期高齢者となる2025年、少子化も相まって、このままいくと相互扶助で成り立っている日本の社会保障システムは破綻します。そうならないために厚生労働省はいろいろな布石を打ってきました。急性期病床と療養型病床を病院自ら選択させ、やがて急性期病院の踏み絵としてＤＰＣが義務付けられました。そして診療報酬では財源を分散させるのではなく、がん治療や精神、小児、救急、外科等に集中配分し、看護配置が手厚い医療機関とそれ以外で大きく差をつけました。諸外国に比べ格段に多い急性期病床を削減する狙いも見え見えです。これからは同じ急性期でも超急性期と亜急性期・さらに回復期に分け、さらには慢性期にシフトダウンさせることで財源を効率的に配分しようとしています。従来、社会的入院が多かった療養型病床は介護療養型への転換を迫られており、医療保険対象から介護保険対象への流れがあるそうです。そして、医療も介護もこれからは在宅へ返すことが大命題になります。いわゆる在宅復帰率を一定数満たすことが求められているのです。何といっても施設に入所するより、医療も介護も自宅で行なう方が安上がりだからであるそうです。

瀬戸山先生のお話を聞くと、医療と介護はクロスオーバーし、どちらもかかりつけ医やケアマネージャーを介して在宅と密接にリンクしていくのがこれからの医療・介護であるそうです。

どんどん進む医療機関の差別化。介護の世界もうかうかしていられないのは今春の介護報酬改定を見れば明らかです。地域の中で完結する医療・介護のシステムに自分の働く施設がどう特色をもって絡んでいけるかが問われています。どこも同じような機能を持つ必要はありません。

聞けば聞くほど難しい舵取りを要求されそうなこれからの医療。当施設の院長や理事は頼りになるのだろうか？瀬戸山先生の話を聞きながら心配になってしまいまいました。杞憂だといいのですが・・。

（文責：川口工業総合病院　横川　昭）

第44回 埼玉県医学検査学会だより

一般演題の募集について

学術部長　伊丹　直人

平成27年４月１日より、一般演題の募集を開始いたします。今月号では、申し込みから発表準備までの概要全体を掲載し、発表の入り口「演題申し込み方法」についての約束事の詳細についてお知らせいたします。

今後、抄録登録からスライド作成・送付までを順次詳しく掲載する予定です。たくさんのご応募をお待ちしております。

[概要]

１．演題申し込み資格

１）発表者は、平成27年度の技師会費を納入した方（以下、会員）に限ります。
２）共同発表者は、原則会員とし７名以内です。
３）非会員の共同発表者がいる場合は、学会事務局にご連絡ください。
なお、学生の発表については上記資格を問いません。

２．演題、抄録原稿の申し込み方法

１）日臨技総合情報システム(JAMTIS)で受付をします。(注：日臨技パスワードを使用します)
※第44回埼玉県医学検査学会ホームページからJAMTISにリンクできます。
２）学生の方、コマーシャル演題は演題申込書、抄録原稿ファイルを第44回埼玉県医学検査学会ホームページからダウンロードし、電子メールや郵送で受付します。

３．抄録の作成要領

１）日臨技総合情報システム（JAMTIS）を利用したWebによる抄録登録をしてください。(注：日臨技パスワードを使用します)
２）学生の方、コマーシャル演題は、第44回埼玉県医学検査学会ホームページからダウンロードしたファイルにMicrosoft Wordを使用して抄録を作成してください。
３）一般演題・学生演題の本文は26文字×18行×２段＝936文字以内です。

４．原稿受領等の通知について

「受領メール」は、演題・抄録登録（変更）時に自動送信されます。受領メールが届かない場合はメールアドレス・登録手順を確認してください。数日経過しても届かない場合は、お早めに第44回埼玉県医学検査学会事務局へお問い合わせください。また、学生演題の「受領メール」は演題・抄録受付後、数日中にメールアドレス先に送信いたします。

５．演題・抄録　受付開始日：平成27年４月１日(水)
演題締切日：平成27年７月15日(水)
抄録締切日：平成27年８月３日(月)

６．発表形式

パソコンを使用した口演形式で行います。

レイアウトずれを防ぐため、パワーポイントのスライドサイズ指定は「35㎜スライド」に設定してください。

＜動画使用の注意＞

コーデックはMPEG1、MPEG2、MPEG4/AVC（H.264）、DivX、WMVをご使用ください。解像度は720*480ピクセル程度とし、デジタルハイビジョンやフルハイビジョンは避けてください。動画再生が不安な場合は複数の形式をご使用ください。

７．発表スライドの送付

詳細については後日ご案内いたします。

８．申し込み演題の採否

１）採否については実行委員会に一任願います。

２）「採否および日時・会場」は、後日電子メールもしくはハガキにて通知いたします。

９．問い合わせ先（第44回埼玉県医学検査学会事務局）

〒362－0806　埼玉県北足立郡伊奈町小室780

埼玉県立がんセンター

第44回埼玉県医学検査学会　実行委員長　吉岡　浩明　宛

ＴＥＬ：０４８－７２２－１１１１（内線：4160）

E-mail：hiroakiyoshioka@cancer-c.pref.saitama.jp

[演題の申し込み方法のポイント★締め切り：７月15日(水)★]

１）発表者及び共同発表者は会員であることが原則です。

２）JAMTIS登録後に受付メールを必ず確認してください。

３）以下の場合にはJAMTISでの受付・登録されたように見えても、システム内で正常処理できないということがあるようです。抄録集作成時にトラブルの原因となりますので、事前に学会事務局に相談してください。

- 非会員の共同発表者がいる場合
- 共同発表者が７名を超える場合

４）学生・ＣＭ演題では事務局へ直接申し込んでください。

各研究班の研修会報告を致します。

テーマ　血中薬物について学びましょう　～免疫抑制剤とTDMについて～

主催　血清検査研究班

実施日時：平成27年１月30日　　19時00分～21時00分

会　　場：大宮ソニックシティ 604号室　　点数：専門教科－20点

講　　師：山田　洋一（ロシュ・ダイアグノスティッククス株式会社）

参加人数：会員22名　賛助会員７名

出席した研究班班員：齊藤雅一　庄司和春　佐野悦子　相坂由里子　鈴木淳子　持田和紀　大島まり子

研修内容・感想など

TDM（therapeutic drug monitoring.治療薬物モニタリング）とは、患者に投与した薬剤の治療効果や副作用等をモニタリングしながら患者に最適な薬物投与を行っていくことである。予め測定目的の薬剤が投入されている採血管（抗凝固剤等はこの場合不純物に当たりますので測定に不向き）で採血した検体を用いて薬物の吸収・生物学的利用能を測定して、薬剤投与量と患者所見との食い違いを観察する。また、TDMのために薬剤血中濃度測定が必要ですから特定疾患治療管理料の名目で保険適用が可能である。

TDMの進め方を、今回は腎移植を中心に講演していただいた。実際には「免疫抑制剤TDM標準化ガイドライン」に沿ってモニタリングを進めていく。TDMは血中薬剤濃度が定常状態の時に測定しなければならないので、ガイドラインでは採血のタイミングが定義されている。さら

に、投薬の作用特性によりTDMは異なる。これらについては、日本TDM学会でソフトの紹介を受けることが可能である。

我が国における透析患者約33万人の多くは時間的制約等の多い透析ではなく腎移植を望んでいる。現在では、免疫抑制剤によって免疫応答を適度に抑制することで、ABO血液型の不適合生体腎移植が可能になったが、免疫抑制剤の作用機序を理解してモニタリングをして行かなくてはならない。なお、副作用の分散を図るため３剤併用が進められているので投与量が多くなるため患者に負担が掛かり、他の薬剤との相互作用や交差反応によって予想外の血中濃度に達することがあるのでTDMが重要になる。

また、TDM運用に適したcobas6000の紹介もあった。

（文責：大島まり子）

テーマ　今、必要とされる検体取扱いの考え方
～分子標的治療を目的とする検査について～

主催　病理検査・細胞研究班合同

実施日時：平成27年２月６日　　19時00分～21時00分
会　　場：大宮ソニックシティ 602号室　　点数：専門教科－20点
講　　師：講演１：FFPEサンプルの調製と保存の際の重要事項
　　講師：北野　敦史（株式会社キアゲン）
　　講演２：FISH法の結果を理解するために必要な染色体の基礎知識
　　講師：後藤　義也（埼玉医科大学国際医療センター）
　　講師３：病理におけるFISH法の検体取扱い注意点
　　講師：江藤　　謙（株式会社 ピーシーエルジャパン）
司　　会：渡邉　俊宏（上尾中央医科グループ上尾中央臨床検査研究所）
参加人数：会員76名　賛助会員９名　非会員３名
出席した研究班班員：渡邉俊宏　岡村卓哉　森田繁　荻真里子　金泉恵美子
　　三鍋慎也　細沼佑介　関口久男　高橋俊介
　　山﨑泰樹　金守　彰　大澤久美子　三升畑奈穂　船津靖亮
　　鶴岡慎吾　大木麻衣　加藤智美　宮内優太

研修内容・感想など

近年、病理検査分野においてコンパニオン診断の重要性が高まっており、その検査に応じた検体の取扱いや処理法も大切になってきている。今回はFISH法の基礎知識、検体の取扱いに重点を置き、３人の講師にご講演いただいた。

講演１では、ホルマリン固定パラフィンブロックからの核酸抽出の原理と結果を題材に、検体採取から保存に至るまでの注意点等を解説していただいた。講演２では、遺伝子・染色体検査の基礎から実際の検査手技およびFISH法の原理や結果の解釈について詳細に解説していただいた。講演３では、肺癌ALKのFISH検査を中心に実際の検査および外部委託する際の注意点や条件を説明していただいた。

今回の研修会参加者数は、会員・賛助会員合わせて88名と非常に盛況で、病理検査に携わる会員の方々のコンパニオン診断に対する関心の高さが感じられた。今後さらに増加していくと考えられる検査であり、今回の研修を各施設での検体取扱いに役立てていただければ幸いである。

（文責：三鍋慎也）

テーマ　医療関連感染対策の話題

主催　微生物検査研究班

実施日時：平成27年２月６日　　19時00分～20時30分
会　　場：大宮ソニックシティ 604号室　　点数：専門教科－20点
講　　師：講演１：*Clostridium difficile* 感染症について
　　講師：原　　哲郎（アリーアメディカル株式会社）
　　講演２：感染対策における地域連携の現状
　　講師：辻　智恵子（埼玉県済生会栗橋病院）
参加人数：会員53名　賛助会員６名
出席した研究班班員：永野栄子　金田光稔　砂押克彦　荻野毅史　牧俊一　小西光政
　　佐藤里香　酒井利育

研修内容・感想など

今回の研修会は、「医療関連感染対策の話題」というテーマで、２名の講師に講演していただいた。

はじめに「*Clostridium difficile* 感染症について」と題して、原氏に講演していただいた。抗菌薬関連下痢症の原因菌であると同時に、院内感染の原因菌としても重要であることが説明されていた。さらに検査結果の解釈から、治療、予防、感染対策の多岐にわたる内容をわかりやすく説明していただいた。個人防護具の脱着や、流水による手洗い等の感染対策の重要性を改めて実感した。

次に、「感染対策における地域連携の現状」と題して、辻氏に講演していただいた。ＩＣＴラウンド内容や、ルミテスターによる清潔領域の汚染度チェックを行っていること、見習うべき点や改善点を写真に記録し注意喚起していることが紹介された。地域連携の取り組みとして、ＭＲＳＡ、インフルエンザウイルス、結核と疥癬の地域サーベーランスについて紹介していただいた。さらに相互ラウンドでは、自施設では気づかない点を指摘していただき改善できる等の利点が紹介された。ＩＣＴ活動と地域連携を継続することの大切さを感じた。

２つの講演より感染対策の重要性を実感した。

（文責：酒井利育）

埼玉県技師会ＯＢ会入会のお誘い

埼臨技ＯＢ会は、定年退職された方や永く賛助会員として勤め上げた方で組織し、国内・海外旅行、懇親会、娯楽等を開催し親交を深めています。また、埼臨技学会参加等、埼臨技事業にも積極的に参加し、埼臨技との変わらない絆を大切にしています。

ＯＢ会の趣旨、活動に賛同し入会を希望する方は、下記記載のメールアドレスまたは電話で問い合わせいただきたくご案内申し上げます。

E-mail : sairingi-ob@sairingi.com
TEL : 048-824-4077

平成26年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第12回　理事会議事録

日　時：平成27年２月12日(木) 19時00分より
場　所：埼臨技事務所
さいたま市浦和区領家７－14－７
議　題：Ⅰ．行動報告　　Ⅱ．報告事項
Ⅲ．承認事項　　Ⅳ．議題
出　席：(理事)津田　神山　島村　岡田　矢作
小山　奈良　猪浦　長岡　伊藤
松岡　小島　濱本　藤井　長澤
鳥山　武関　野瀬　神嶋
(監事)遠藤

本日の理事会の出席者は20名であった。理事の出席者は19名で、現在数20名の過半数に達しており、定款第33条第１項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第１項より、津田聡一郎会長が務めることとなった。

Ⅰ．行動報告(平成27年1月8日～平成27年2月11日)

１月８日(木)平成26年度公益社団法人第11回理事会：
津田、神山、島村、矢作、小山、奈良、猪浦、長岡、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、山口、武関、鳥山、神嶋、遠藤、細谷

１月８日(木)事務所改修本引渡し：
津田、神山、矢作

１月８日(木)平成27年賀詞交歓会ならびに各賞受賞記念祝賀会事前準備：長澤

１月９日(金)平成27年賀詞交歓会ならびに各賞受賞記念祝賀会：
津田、神山、島村、岡田、矢作、小山、奈良、猪浦、長岡、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、山口、武関、鳥山、野瀬、神嶋、遠藤

１月16日(金)神奈川県臨床検査技師会賀詞交歓会：神山

１月16日(金)総務部会議：
島村、岡田、奈良、猪浦、長岡、伊藤

１月20日(火)第１回予算委員会：
津田、神山、島村、岡田、矢作、小山、奈良、松岡、小島、濱本、山口、野瀬

１月23日(金)日臨技情勢報告会及び賀詞交換会：
津田、神山、岡田

１月23日(金)第44回埼玉県医学検査学会第３回実行委員会：長岡

１月23日(金)第１回編集委員会：山口、鳥山

１月24日(土)日臨技全国幹事会：
津田、神山、岡田

２月７日(土)一都八県会長会議：
津田、神山、島村

２月７日(土)平成26年度関甲信支部・首都圏支部人材育成研修会：
津田、神山、島村、矢作、長岡、伊藤、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、神嶋、遠藤

２月９日(月)第１回諸規定検討委員会：
津田、神山、島村、岡田、矢作、小山、奈良、松岡

２月10日(火)平成26年度公益法人・移行法人の定期提出書類及び法人運営に関する説明会：矢作、松岡

２月10日(火)埼玉県医学検査学会第43回・第44回実行委員引き継ぎ会：
岡田、長岡、小島

Ⅱ．報告事項

１　事務局
1)叙勲、褒章の推薦について
2)福見秀雄賞の推薦について
3)事務所修繕について
4)２月９日、第１回諸規定検討委員会を開催した。

２　総務部
1)「埼臨技だより」第429号、２月15日発行予定
2)１月16日、総務部会議を開催した。

３　事業部
1)２月７日、関甲信支部・首都圏支部人材育成研修会を開催した。
2)第２回検査室運営研修会について

４　学術部
1)１月23日、第１回編集委員会を開催した。
2)日本赤十字社より、輸血研究班実技講習会に使用する血液の譲渡について承認された。契約は技師会名で行う。

3) ４月５月の生涯教育研修プログラムを２月16日発送予定

５　精度保証部

1) 特になし

６　会 計 部

1) 平成26年度会費７名分35,000円、入会金７名分7,000円、合計42,000円の入金があった。

2) だより第428号印刷代165,424円を石井印刷に支払った。

3) 事務所改修工事最終支払い分5,400,000円を中川工務店に支払った。

4) 平成27年賀詞交歓会会計報告

5) １月20日、第１回予算委員会を開催した。

７　精度管理委員会

1) 日本赤十字社より、医師会サーベイに使用する血液の譲渡について承認された。契約は技師会名で行う。

2) ３月11日、埼玉県医師会精度管理講評会開催予定。

８　一都八県会長会議

1) 27年度関甲信支部学会は長野県、首都圏支部学会は神奈川県が担当する。

2) 29年度日臨技全国学会を千葉県が担当する。

3) 27年度関甲信支部・首都圏支部人材育成研修会は茨城県が担当する。

９　日臨技関甲信支部

1) 27年度関甲信支部学会は長野県が担当する。

2) 27年度関甲信支部・首都圏支部人材育成研修会は茨城県が担当する。

10　日臨技

1) １月24日、全国幹事会が開催された。

11　第43回埼玉県医学検査学会

1) ２月10日、第44回実行委員会との引き継ぎ会が開催された。

12　第44回埼玉県医学検査学会

1) １月23日、第３回実行委員会を開催した。

Ⅲ．承認事項

１　事務局

1) 会員動向（会費納入済）（平成26年度分）

平成27年２月３日現在

会員数 2,443名

（新入会員 212名［平成25年度会員数2,306名］）

賛助会員　79社［平成25年度 72社］

2) 技師養成施設からの卒業式および入学式出席依頼について

卒業式には三役、濱本事業部長、遠藤監事が出席することとし、また入学式は祝電対応とした。

・東武医学技術専門学校

３月７日（土）：神山副会長

・西武学園医学技術専門学校

３月12日（木）：濱本事業部長

・埼玉県立大学

３月13日（金）：岡田副会長

・埼玉医科大学

３月14日（土）：津田会長

・文京学院大学

３月15日（日）：遠藤監事

２　総務部

1) 第43回埼玉県医学検査学会決算書について

３　事業部

1) 特になし

４　学術部

1) 第43回埼玉県医学検査学会優秀発表受賞者について

５　精度保証部

1) 特になし

６　会計部

1) 平成27年度予算案について

Ⅳ．議題

１　諸規定の一部改定について

標記の件について、矢作事務局長より発言があった。これを受け理事会審議の結果、出席理事全会一致で承認した。

２　県会員の会員証作製について

標記の件について、矢作事務局長より発言があった。これを受け理事会審議の結果、出席理事全会一致で承認した。

３　平成27年度会員名簿発行と賛助会員への広告依頼について

標記の件について、奈良総務部長より発言があった。これを受け理事会審議の結果、従来の名簿と比較しＣＤ化による作製費削減や利便性を考慮し、コピーガード等セキュリティーに気を付けることで名簿をＣＤ化とすること、またこれに伴い賛助会員への広告依頼も行わないことを出席理事全会一致で承認した。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

求人案内

○ＪＡ埼玉県厚生連　熊谷総合病院
採用条件：臨時職員
連 絡 先：048－521－0065　総務課　関口

○埼玉県立小児医療センター
採用条件：臨時職員
連 絡 先：048－758－1811　内線1814
総務・職員担当　岸

○医療法人社団 協友会　メディカルトピア草加病院
採用条件：正職員
連 絡 先：048－928－3117　総務人事課　山野

○医療法人 健仁会　益子病院
採用条件：正職員
連 絡 先：048－267－2213　人事課　塚本・佐谷

○ヘブロン会　大宮中央総合病院
採用条件：正職員　臨時職員
連 絡 先：048－663－2501　人事担当者

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

あ　と　が　き

みなさん「語先後礼」をご存知でしょうか？私は先日行われた「検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会」の接遇研修で知りました。「語先後礼」とは、挨拶の言葉を言い切ってからお辞儀をする挨拶の基本動作のことで、これを行うことで挨拶における「４つのふれ合い」（言葉・アイコンタクト・表情・姿勢）を確実に交換することが出来るそうです。

自分の挨拶を振り返ると、当然「語先後礼」ではなく「語礼同時」、また「４つのふれ合い」が今まであったかと考えると、アイコンタクト・表情が足りなかったかな…　特にお辞儀後のアイコンタクトが無く、挨拶しっ放しと反省しました。

「語先後礼」「４つのふれ合い」を意識し身に着けよう！と、まだぎこちない挨拶をしている今日この頃です。

（猪浦　記）